

新たな発展のための一歩

『人間関係研究』も第4号の発刊を迎える時が来ました。南山短期大学から南山大学人間関係研究センターとして2000年4月に移管されて、本年度が5年目の新しい展開期に入りつつあります。学部改組では4年目が一つの完成年度であり、本学も5年目に入りカリキュラムの見直し等を行いながらより充実した学部教育を実現するための新しい展開に移ろうとしています。本センターにおきましては、丸山雅夫教授（法学部法学科）の初代センター長の強い支えのもと、南山大学という地に本センターの活動を根付かせる4年間でありました。そして、この4年間に鑑みながら、南山大学において十分に機能する研究機関として発展するために努力を怠ることはできないと考えております。

新しい展開期に入り、センター長を拝命し、微力ながらこの1年間幾つかのことに取り組んで参りました。まず、2005年度の研究員は、幅広い分野から「人間関係」の研究に関心をもつ研究者から構成するようにいたしました。それにより、学校教育分野や企業経営分野における研究者が多数集まり、本研究センターにおける研究の広がりと共に、新たな研究活動の担い手になってくれることと期待しています。

二つ目に、本センター運営委員会を中心に、本センターのミッションを創り上げ、センター員の合意を得ることができたことも、これからの新しい発展のための第一歩になると信じています。「人間の尊厳のために」をベースに人間性豊かな社会を創り出すために、また個性ある生き方を創り出すために社会のニーズに応えながら、現代社会の諸問題への挑戦と研究共同体づくりに取り組むことが本センターの主たる目的であると考えています。そのために、学外（国際社会・地域社会）での研究活動や教育支援活動を展開すると共に、学内での研究・教育活動との連携を大きなフィールドとして、アクションリサーチやラボラトリー・メソッドによる体験学習を活用した統合的な人間関係研究をめざしていきたいと考えています。具体的な活動として、本紀要や研究会といった場を積極的に利用した研究成果の公表や研修会などが大きな柱になります。その他に、公開講演会やコンサルテーションなど幅広い活動が期待されます。

三つ目に、2004年4月に開設された教育ファシリテーション専攻の大学院教育との連携があげられます。高度専門職養成の大学院として機能を果たすためには実践的な研究活動はなくてはならないものです。そのために、本センターは、院生の研究・実践の場として大いに機能を果たすことになるだろうと考えています。今年は、幾つかの公開講座への参加とセンターの図書資料類の閲覧サービスにとどまりましたが、次年度からはもっと積極的に大学院教育との連携も視野に入れた活動も必要でないかと考えています。たとえば、教育プログラムの開発等で実践的な共同研究などが実現できることを願っています。

南山短期大学において培ってきてラボラトリー・メソッドによる体験学習を活用した研究、特に教育・研修に関しては、南山大学に移管後の4年間においてさらに地域の人々のニーズは高まっています。本号の特集「現場に生かす人間関係研究」も、読者の皆様方の教育研修、ならびに研究の一助になれば幸いです。

新たな展開の2年目に際し、本年度創り上げたミッションをもとに本センターの活動をセンター員と共にまた地域の方々とともに充実させ、さらなる飛躍を果したいと考えています。読者の皆様方のますますのご指導・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

南山大学人間関係研究センター長 津村俊充

